

## 模擬出前授業

えひめ学校・地域教育サポーターを活用して、子どもたちの豊かな学びや体験の充実を図ろう

「えひめ学校・地域教育サポーター」は、学校及び地域における教育活動に対して支援を行う企業、団体等です。子どもたちの豊かな学びや体験活動の促進を図ることを趣旨としており、現在、224の企業団体が登録しています。  
(R6.10月時点)

### 本制度に登録している企業・団体等のプログラムを体験♪

模擬出前授業として、株式会社伊予銀行のプログラムを参加者に体験してもらいました。お金の大切さについて児童・生徒の立場になって考える貴重な時間となりました。

そして、次の七つの企業・団体に提供プログラムの内容について詳しく説明してもらいました。参加者は、自身の活動にどのように活用するか考えながら、熱心に耳を傾けていました。



模擬出前授業の様子



個別ブース説明の様子

#### 今回協力いただいた企業・団体

- 愛媛県歴史文化博物館
- 公益社団法人愛媛県看護協会
- 日本赤十字社愛媛県支部
- 社会福祉法人愛媛県社会福祉協議会
- 公益財団法人日本漢字能力検定協会
- 金融リテラシー向上コンソーシアム
- SMBCコンシューマーファイナンス株式会社

### 参加者の声

- 伊予銀行の模擬出前授業や三つの企業・団体の話を聞き、ぜひ子どもたちに体験させたり、聞かせてあげたりしたいと思います。実施してみたいと思います。(教職員)
- 企業が学校・地域とどのようにつながるか、地元企業として何ができるか改めて考えたいと思います。(企業関係者)
- いろいろなものに実際に触れたり、見たりすることによって子どもたちは、より関心をもち、理解が深まると思います。(地域ぐるみ事業関係者)

### 詳細はこちら

えひめ学校・地域教育サポーター

URL  
<https://ehime-c.esnet.ed.jp/shougai/gakusapo2/gakusapotop/gakusapotop.htm>

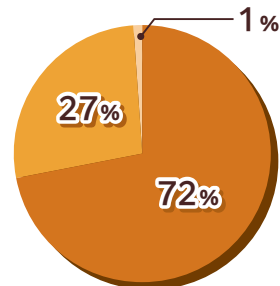


えひめ家庭教育サポート企業連携事業

URL  
<https://ehime-c.esnet.ed.jp/shougai/kateikyoiuku/kigyoo-top/kigyounenkei.html>

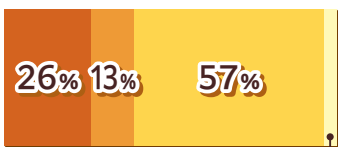


#### アンケートより…集い全体の感想



- 大いに参考になった
- 参考になった
- あまり参考にならなかった

#### 参加者381人の内訳



- 教職員
- PTA
- 行政・教育関係者・企業・団体
- 一般

本集いは、県教育委員会と愛媛県幼稚園小中学校高等学校PTA連合会連絡協議会と共催で、平成25年度から実施しており、今年度で12回目を迎えました。

このリーフレット及び過去の集いの様子は右の二次元コードから御覧になれます。

URL <https://ehime-c.esnet.ed.jp/shougai/tsudoi/tsudoi-top.htm>



#### 発行

愛媛県幼稚園小中学校高等学校PTA連合会連絡協議会

#### 問合せ

愛媛県教育委員会事務局社会教育課  
〒790-8570 愛媛県松山市一番町四丁目4番地2  
TEL: 089-912-2933 MAIL: shakaiky@pref.ehime.lg.jp



### 参加者の提言



- 子どもたちが健やかに育つには、失敗や挫折の経験も重要だと感じています。失敗を許したり、適切なアドバイスをしたりする姿勢を大人が見せることが大切ではないでしょうか。「子ども」としてではなく、「一人の人」として相対できる社会の実現を求め、その一員でありたいと思います。(教職員)
- キャリア教育を愛媛県全体で取り組み、大人も子どもも自分の人生を創造することについて意識啓発し、自己概念を形成する過程を大切に教育の提供をしていくことが大切だと思います。(教育関係団体役員)
- 大人が子どものために教えるのではなく、子どもと共に学ぶかというスタンスが大切だということに改めて気付かされました。子どもの「やりたい」を邪魔しない大人の姿、とにかく「楽しんで」活動している大人の姿が結果的に子どもを育てることになると思います。(教職員)
- 地域が子どもたちを自分たちのこととして考え、かつ、全体で楽しめる社会教育活動を考えたいと思います。(保護者)
- 家庭、学校、地域それぞれが子どもを中心に据えた活動の必要性を確認し、将来を見据えたその地域ならではのビジョンを策定し、できることから取り組むことが大切です。(行政職員)
- まず、地域(場所・人)を知ったうえでつながりづくりをし、一緒にできることを考えていきたいです。(保育士)



主催：愛媛県教育委員会 共催：愛媛県幼稚園小中学校高等学校PTA連合会連絡協議会

(愛媛県国公立幼稚園・こども園PTA連合会、愛媛県PTA連合会、愛媛県高等学校PTA連合会、愛媛県私立中学高等学校保護者会連合会)

# えがお 愛顔 でつなぐ “学校・家庭・地域” の集い

令和6年度



### 開催レポート

令和6年8月27日(火)に愛媛県生涯学習センター及びえひめ青少年ふれあいセンターを会場に「令和6年度愛顔でつなぐ“学校・家庭・地域”の集い」を開催しました。県内各地から、保護者、教職員及び教育支援関係者等381人が集い、講演や分科会等を通して、社会総がかりで愛媛の子どもたちを育むための方向性を探りました。本集いの様子と参加者の提言をリーフレットにまとめましたので、ぜひ御一読ください。

## 講演

講師

特定非営利活動法人おむすび理事長

おおはた 大畑

のぶゆき 伸幸 氏

## 「ひとづくり・つながりづくりで学校が変わる! 地域が変わる!!」



### 今の子どもたちに必要なこと

学びの本質は、自ら学びたいことを自ら求め、自ら考え、一人でできなかった場合は、仲間と一緒に実現することにあります。しかし、「まじめにやりなさい」「ちゃんとやりなさい」「早くやりなさい」と、子どもたちは失敗しないことを日常的に言われて育っているためか、失敗を恐れてトライをしない子ども、自らやりたいことを発信できない子どもが増えています。益田市では、自らやりたいことや目指したいロールモデルを見つけるために、保護者や教師以外の多様な大人と出会うことが大切だと考えました。

### 島根県益田市の取組

益田市では、持続可能な地域づくりのために持続可能なひとづくりに取り組みました。その一つが「益田版カタリ場」です。益田版カタリ場とは、子どもたちと地域の大人が1対1で対等に語り合う、子どもと地域の大人がつながることを目的としたキャリア教育のプログラムです。地域の大人との対話の中で、「図書館だった公民館の部屋をリノベーションしたい」、「地域の魅力をもっと多くの人に届けたい」等、子どもたちの「やりたい」がたくさん生まれます。益田版カタリ場では、地域の大人が伴走者となり、子どもたちの「やりたい」を実現していきます。子どもを真ん中に据えたひとづくり・つながりづくりは、未来のまちづくりの主体者をつくることにもつながっています。



### 参加者の声

- 「まじめにやりなさい。」「ちゃんとしなさい。」「早くしなさい。」という言葉は、問い直さなければならぬと思いました。学校教育に関わる方々と共に学校の在り方についても問い直していきたいです。学校に余白を! 子どもたちに遊びを! (教職員)
- 子どもたちが思う存分、夢中になる経験づくりを意識したいと思います。(地域ぐるみ事業関係者)
- 地元安心して帰ってくる事ができる、世代を超えた関係づくりに感銘を受けました。(公民館関係者)





# 分科会等

## 五つのテーマ別分科会等に分かれて、社会総がかりで子どもを育てる体制づくりについて協議しました。

### 第1分科会 「地域学校協働活動」

幅広い地域住民の参画により、学校と地域が連携して子どもたちを育てる体制づくりをどのように進めるか

#### 発表1 東温市立北吉井小学校

本校では、地域連携教育推進主任を設置し、校内研修や地域との連携活動を進めた結果、教員の負担感が軽減しました。今後も地域との連携を深め、「地域とともにある学校づくり」を推進していきたいと考えています。



伊藤芽久美 教諭 田房 克寿 氏

#### 発表2 北宇和高等学校三間分校地域情報ビジネス部

地元産の材料を使った「MIMAライスパーガー」の開発・販売や、「美沼フルーツミックス」というスイーツ開発に挑戦し、地域イベントで提供する等、地域との連携を深め、まちの活性化を目指し、様々な取組を継続しています。



福島 奏子 さん・和田 恋羽 さん  
猿谷めぐみ 氏・山本 潤也 教諭

#### 助言

一般社団法人コムスクえひめ代表理事 西村久仁夫 氏

北吉井小学校は、学校運営協議会で学校が地域・保護者と一緒にカリキュラムを組み立てており、社会に開かれた教育課程の姿と、推進するための体制づくりの姿が見えました。また、北宇和高校三間分校の実践からは、地域創生に動き始めた高校生の姿と地域人材の姿が見えました。「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る。」これが、学校教育の新たな理念です。学校教育は地域との協働に大きく舵（かじ）を切り、地域創生に踏み込んでいかなければなりません。



#### 参加者の声

- コミュニティ・スクールの導入に向けて、よいヒントを得ることができました。子どもが、育ったまちのことを誇りに思えるように自身の計画を見直していきたいと思えます。(公民館関係者)
- 三間分校の生徒・卒業生が学校生活の中で成長して立派な大人となっていることを実感しました。高校生の力、とてもたのもしく思いました。(行政関係者)
- 地域に興味をもつ子どもを育てていくことが重要です。地域の子どもたちを地域で育てることが、次の世代に地域をつなぐ確かな方法だと感じました。(教職員)

### 第3分科会 「子育て・家庭教育支援」

保護者と子どもを支え育て・家庭教育支援の体制づくりをどのように進めるか

#### 発表 愛媛県教育委員会社会教育課

家庭教育や子育てについて気軽に話し合うきっかけづくりとして作成したのが、「愛媛の子育てトーク&わく応援プログラム集」(以下「トクわく」)です。本プログラムは、子育て中の保護者だけでなく、地域の様々な年代の人たちも対象としていますので、仲間づくり、地域づくりにぜひ御活用ください。

「トクわく」は  
二次元コードから



<https://www.pref.ehime.jp/page/1258.html>

#### 「トクわく」を体験し

参加者を4~5人の小グループに分けて、プログラムを体験してもらいました。テーマは「スマホやゲーム機、タブレット等を使うときのルールづくり」です。「時間を制限して使うようにしています。」「使う場所をリビングに限定しています。」等、体験談を交えながら我が家のルールを紹介し合いました。参加者同士のコミュニケーションを通して、子育てについての共感や気づきを学び合う時間となりました。



#### 参加者の声

- 良い話し合いができました。みなさんと子どもに関する悩みを共有できたので、有意義な時間となりました。(保護者)
- 「トクわく」を通じて、グループの方とコミュニケーションを図ることができ、人とのつながりのぬくもりを感じました。「トクわく」をどこかで活用したいと思っています。(社会教育関係団体関係者)
- 最初は緊張しましたが、テーマに沿って話していくと、いろいろとトークできたのにびっくりしました。とても楽しかったです!(保護者)

#### 助言

愛媛大学大学院教育学研究科特定教授 中尾 茂樹 氏

「一人の子どもを育てるのに、村中の大人の協力が必要である。」これは、ある国の諺(ことわざ)です。本来、日本で行われていた子育ての姿です。今、地域のコミュニティの希薄化が指摘されています。「トクわく」の良さは、個々が関わり合っつながり合うことができることです。相手の「思い」に関心を寄せ、その思いを尊重しながら関わることで、関係性が良くなります。良い関係を築き、困ったときに「助けて」と言えるつながりをつくっていただきたいと思えます。



### 第2分科会 「子どもの居場所づくり」

全ての子ども・若者が安心して過ごせる地域の居場所づくりをどのように進めるか

#### 発表者1 別宮地域食堂「あさかせKAMAN」

「KAMAN」(かまん)とは、「問題ない」という意味の今治の方言です。本地域食堂は、子どもの自立復帰を促すため、地域交流・居場所づくりの拠点として発展してきました。今後も活動を続け、子ども食堂が必要でない社会づくりを目指したいです。



山川 博一 氏 渡辺小百合 氏

#### 発表者2 川之石地区交流拠点施設みなせ

本施設は、年間1万人以上の方が利用し、地域住民の憩いの場となっています。ボランティアグループが育つ風潮に、そして、優しいまちにしたいという思いがあり、今を生きる地域の若者が川之石に愛着を持てる地域、いつか帰ってくる「ふるさと」であり続けたいと考えています。



菊池 敏和 氏

#### 参加者の声

- 地域や世代を超えた人々のつながりをつくっていくことが重要であると感じました。自分が住んでいる地域のイベントに積極的に参加しようと思えます。(学生)
- 様々な立場の人から話を聞くことができよかったです。公民館関係の立場として、子どもたちの居場所となる公民館になるように常に考え、発言・行動しようと思えました。(公民館関係者)
- 社会教育関係の仕事に携わりたいと考えています。皆にとって、居場所になる場所をつくりたいです。(学生)

### 第4分科会 「地域教育の担い手づくり」

子どもと地域をつなぎ、地域の学びを豊かにする人材の育成をどのように進めるか

#### 発表者1 双海町こども教室実行委員会等

双海町子ども教室に参加した卒業生の「何か恩返しをした」という思いから「双海町ジュニアリーダー会」が発足しました。多くの地域の方と関わり、楽しみながら活動することで、子どもたちの地域への愛着が育まれており、「笑って暮らせる地域づくり」の一端を担っています。



本多 正彦 氏

#### 発表者2 えひめ地域コーディネーター・ネットワーク

活動・相談ができない地域コーディネーターが孤独で悩むことがないように発足し、毎月オンラインを中心に交流会を行っています。教育、行政、地域等で活動されている方との対話を通して、様々な人となつがる喜びや気づき、自分の成長を感じるだけでなく、地域と学校をつなぐ担い手が自然と増えていく場となっています。



酒井 あい 氏 福本 政代 氏

#### 参加者の声

- 中学生や高校生が主体となって企画・運営するイベントを行いたいと思います。イベントの成功体験によって、子どもたちが自信をもつだけでなく、地域への愛着が更に高まると思います。(行政関係者)
- 子どもたちのためのよりよい環境づくりを真剣に考える仲間がたくさんいます。小さな活動の積み重ねを続けていきたいと思っています。(福祉関係者)
- 対話によって地域を大切に思う価値観をつないでおり、すばらしいと思います。地域の担い手を育てる取組に、私も関わっていききたいと思います。(教職員)

#### 助言

特定非営利活動法人おむすび理事長 大畑 伸幸 氏

「あさかせKAMAN」は、人がつながる場を生み出しています。また、中学生がボランティアで参加しており、人がつながり、循環が生まれています。「食べる」ことは、栄養を取るためだけでなく、対話が生まれたり、親しくなったりという大切な効果があります。「みなせ」は、「好きなことをみんなで作る」という思いで活動しており、子どもたちが施設に集まるすばらしい取組です。子どもや地域の思いに添った活動こそが地域の課題解決につながります。



#### 助言

新居浜市生涯学習センター所長 関 福生 氏

二つの実践に共通するキーワードは「対話」です。対話を通して相手の思いを受け取り、自分の思いを伝えることで、互いの納得解、共通解を見つけていくことができます。社会教育の場では、恩を返すだけでなく、次の世代に恩を送る「恩送り」という発想が大切です。自分だけが力を尽くすのではなく、その地域にいて化学反応を起こす触媒のような人、そして悩みを一人で抱え込むことのないように人と人をつなぐ橋渡しができる人を目指してほしいと思えます。

